

氏 名：杉山 理恵

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 252

学位授与年月日：2024 年 3 月 8 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 山田 雅子（聖路加国際大学 教授）

副査 大久保 暢子（聖路加国際大学 教授）

副査 亀井 智子（聖路加国際大学 教授）

副査 鈴木 智恵子（日本医科大学付属病院 看護部長）

論 文 題 目：急性期病院に入院する高齢患者を対象とした誤嚥・窒息予防のための摂食嚥下
フローの実装と評価

博士論文審査結果

本研究は入院患者の 54%が高齢者であり、患者の摂食嚥下機能に合わせた食形態の選択が不十分なために誤嚥性肺炎を合併し、気道管理などの集中治療を必要とする症例が発生した経験を持つ A 急性期病院において、患者の「口から食べる」を支援する看護の質改善に取り組んだ実装研究である。

実装戦略のために作成したツールは、Step1:嚥下質問紙・簡易版の実施、Step2:嚥下機能評価、Step3:食形態の目安、Step4:看護計画・看護指示の立案とケアの 4 段階からなる「看護師による摂食嚥下スクリーニングフロー（以下、摂食嚥下フロー）」で、プロジェクトリーダー(研究者)、病棟管理者、嚥下支援チーム(医師、管理栄養士)で組織した実装チームが全体をマネジメントした。実装は 2 ヶ月間の教育を受けた 10 名のコア看護師が中心に担い、2 つの病棟でそれぞれ 30 日を 1 クールとして 3 クールのプロセスを踏んだ。

期間中コア看護師は病棟看護師と協働し、65 才以上の入院患者 35 名に対し、嚥下機能に合った食形態と看護ケアを提供できていた。食事開始から嚥下機能評価実施までの時間差は約 0.7 日と比較的短時間であり、これまで嚥下機能評価の妥当性が不透明なまま医師が指示した食事を配膳していた看護とは異なり、高齢入院患者の食事に対してより関心を高め支援する看護師の姿が描出された。

審査での指摘事項は以下であった。

- ✓ 目的、目標、Aim の関連と一貫性についての再考
- ✓ 事前に行ったスコーピングレビューの本論文における位置づけの再考
- ✓ 摂食嚥下フローに個人の判断が含まれている点についての再考
- ✓ 本論中で扱う事例の記載目的が不鮮明であることや、記載されていない患者の様子が不明であるため、食形態の変更による誤嚥・窒息予防を必要とした患者 18 名の具体的な状況を一覧などで記載し、対象患者の状況を明確にすること
- ✓ 結果のまとめを作成すること
- ✓ 剽窃の評価結果が高いことについて精査すること
- ✓ 図表、数値の示し方など、APA スタイルに従うこと

以上につき、2024 年 2 月 1 日に提出された修正論文を各審査委員が査読し、十分に対応できていることを全員が確認した。

本論文は、超高齢社会にある日本の急性期病院で、患者の人権尊重に関わる極めて重要な課題に対する一つの勇気ある課題解決モデルの実装と言える。我が国の専門看護師および認定看護師の今後の役割発揮に対して影響を及ぼす貴重な知見を示した研究であると評価した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。